

経営者への活きた言葉

大手企業が研修に来る知る人ぞ知る町工場 浜野 慶一(浜野製作所社長)

1. 東京都墨田区。約3100の町工場がひしめく下町に、企業や行政の視察が絶えない企業がある。創業34年、金属プレス加工を手がける浜野製作所。年商5億円。社員30人の規模ながら、昨年末にはホンダが役員研修で訪れるなど、知る人ぞ知る町工場である。
1日約200種類もの金属を加工し、通常なら3週間かかるものを2週間で納品するなど、多品種・短納期が売りだ。技術力にも定評がある浜野の顧客名簿には、大手企業の名前がずらりと並ぶ。
2. 浜野慶一社長は20年前、29歳で創業者の父の跡を継いだ。当時の売上高は3000万円で、新規顧客の開拓に奔走したが、門前払いされる日々が続いた。営業を続けるうちに、「顧客を増やすには、安くするか、難しいものを加工するか、納期を短縮するしかない」と気づく。
浜野社長は「安くするのだけは嫌だった。だが、難しい加工は社員から“できない”と言われた。残された道は短納期への挑戦しかなかった」と振り返る。だが、根性をよりどころにしたやり方はすぐに限界を迎える。「会社を土俵から作り直すしかない」と着手したのが、確実に納期を守るための生産管理システムと人材の育成だった。
3. 取引先が増え始めた頃、「たとえ教育に時間を要しても未経験者を中心に採用すると決めた」。即戦力の経験者よりも、浜野の目指す方向性に賛同する人材が必要だった。
高い技能を持つ若手も育ち、東京都から「未来の名工」に選ばれた者もいる。

(参考:「日経ビジネス」2012年5月5日号)

経営者のための理念・哲学

日本の美質を後世に渡していく

1. 日本の国は、中国の唐に比べても優れた点が二つある。中国は古代から何度も王朝が入れ替わっているが、日本は万世一系を守っている。また、素晴らしい大和言葉が満ちあふれている。
これは誇るべきことだ。日本は日本たらしめているものの^{オンタク}思沢によって、日本人は独特の精神的価値観を醸成した。それは明治期に活躍した事業家たちの信条に端的に現われている。
2. 森村財閥(現在のTOTO、日本ガイシ、日本特殊陶業、ノリタケの母体)を創設した森村市左衛門の人生信条。「天に神あり 地に心あり 人生誠を以て貫く」。一代で安田財閥を成した安田善次郎の生涯の銘。「^{イツ}儉約、克己。一にもってこれを貫く」。
我が国が二千年以上の歴史を営々と受け継ぎ、今日の発展に到達し得たのは、この国民の美質による。この美質を後世に渡していくことこそ、我々の使命である。

(参考:「致知」2012年6月号)